
真夏の悪魔

ネッシー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

真夏の悪魔

【ZPDF】

Z7994E

【作者名】

ネッシー

【あらすじ】

夏の風物詩とも言えるかもしれないアイツが『大っ嫌い!』なアヤト…、アイツへの恐怖へ打ち勝ち、無事に家に帰る事が出来るのだろうか…。

今は夏だ！

食べ物の好き嫌いも無く、人もめったに嫌いにならない俺が、唯一嫌いなものがこの季節には存在する…。

この道路の真ん中で、ひっくり返つて、
その正体は……

人が横を通り過ぎようとすると、

「おまえ、嫌がらせだろ？！」「…」とひいたくなるくらい

俺は今、絶対絶命の窮地に立たされている……。

俺の家は一軒家で、家に入るには細い道を通りなければならない。
細いと言つても横幅3メートル位はあるだろうか、車も楽に入つて
いける位はある……。

しかし、その真ん中にほ、生きているのか死んでいるのかすらも分からぬ悪魔が横たわっている…。

イジメか？イジメなのかつ！？

何故こんなスペースにコイツがいる？

いくらでも他に行くところはあるだろ？！

ハア、ハア…

いくら心の中で叫んでも奴は動く気配すら無い…。

そもそも俺が、名前すら声に出すのもおまじにアイツを、嫌いになつた訳を説明しよう。

アレは小学校三年生の夏だつた…。

*

「ゴッキー！」

俺は自分の幼なじみであり親友である、コウキを見つけて声をかける。

「おうアヤト、今からヤ//とつ行かねえ？」

「ヤ//？ 行く行くー。」

俺は虫取りをする事の興奮を隠せないでいた…。

無邪気に一人で笑いながらセ//を取つていき、しばらく経つと虫かごには大勢のセミが蠢いていた…。

捕まる楽しみが無くなり、もつセ//には何の魅力も感じない…。

「気持ち悪いなあ～」と俺が言つと、

「じゃあ逃がしてやるかー」とコウキが言つて、カゴを空け逃がそうとする。

しかし、コウキの手が止まる…。

俺が不思議に思つて

「どうしたん？」と聞くと、

コウキは、イタズラつ子が新しいオモチャを見つけたような笑みを浮かべながら

「イヤイヤ、何でも無いよ。それよりあつちにリストが届るよー。」

と言い、変だなとは思いつつも、リストも見たい欲望には勝てず。後ろを向く

「……リストどこに呪文の？……わあっ？！」

俺がリストを探していると、急に襟を引っ張られる、そして背中に何かうじやうじやしたモノが流し込められる。

それがセニだと理解するのに、あまり時間はからなかつた。

「つぎやあああああ――――！」

背中からセニを掻き出そうとするが、なかなか出て来ない。俺の目からは涙が溢れていて、ユウキはそれを泣くほど笑つて見ている、おまえは悪魔かあーっ！（怒泣）

少しでも逃がそうとバック走をする、そんな状態で後ろ向きに走るもんだから、何かにつまづき後ろから倒れてしまつ…。

*

残念ながらその後の記憶は無いが、ユウキが必死に謝つていた所を見ると、それはそれはヒドい惨状だったのだろう…。

と、昔の回想をしたところで現状が打破される訳では無いが…。俺がどれだけ奴の事を嫌いかは理解出来ただろつ。

この硬直状態から抜け出す為に、つま先立ちで、奴から一番遠くでだろう場所に足をつけ、なるべく刺激しないように通り抜ける事にした。

そろへり そろへり

と、今なら忍者にも気づかれないと思えるほどの忍び足で慎重に奴の横を通り…。

家の門に近づき手を付ける…。

この時の最大の失敗は、足元にだけ気にしていて手元をあまり見ていなかつた事だ。

手を付いたとき、いつもの感触は無く代わりに、全身の細部すべてに鳥肌が立つような感触…。

手元を見るとバタバタともう飛び去つた後だった…。

五分位制止していたが、メスだったので鳴き声は無く、ダメージは大きいが立ち直れない程では無かつた。

やつとの事で意識を戻しドアの前に視線を移すとそこには、ひつくり返り、六本の足を惜しげもなく晒している悪魔が…。

なぜこんなにもこの場所は悪魔の潜伏率が高いのか…。

心の中で嘆いてみても何も変わらない。

この状況をどうやって脱出しあつか身動き一つ出来ずに考えている

と、後ろから声が掛かった。

「おっ、アヤトじゅーん何してんの？」

ヨウキはなまけつている俺と、下に居る悪魔を見てすぐに現状を察した。

そして、また、あのイタズラっ子の笑みを浮かべた。

…俺の体からは絶えず、脂汗が流れている。

ユウキは道の真ん中に居た悪魔の羽をおもむろに掴むと、俺の方へ向かって一

振りかぶつて……投げたつ！！

その後、俺の断末魔が住宅街に響き渡ったのは、言つまでもないだろ？。

（end）

(後書き)

下手くそなので、アドバイス、感想などを書いて下さったら、泣いて喜びます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7994e/>

真夏の悪魔

2011年1月27日09時28分発行